

平成31年度 社会福祉法人 放泉会

1. 今年度中において、当法人の大規模事業であるサンシルバーさわらびが移転改築工事が終了し、新天地での事業開始となる予定である。
一年後の移転に向けて、処遇、勤務等のソフト面の準備を行い、充実を図らなければならない。また、来年度を見据えた人事異動を積極的に行い組織内の活性化を図る。
2. 平成30年度の介護報酬改定により、自立支援や重度化予防に対する介護サービスが高く評価されるようになった。両特養においては、嘱託医師と連携し新たな体制を整備し、質の高いサービス提供を図る。
3. さわらび苑短期入所において、稼働率が低迷している。通所介護利用者と重複の為、通所介護への影響がある。利用者の入院に応じての利用者獲得が必要である。
また、ユニット型の空床利用短期入所の稼働率が低い見込みである為、利用者の健康管理、居宅支援事業所と連携が重要となる。
4. 今秋、介護報酬の改正が行われ新たな介護職員の処遇改善が導入予定である。本制度にて介護職員の処遇改善を一層図る
5. 居宅介護支援事業所において、今年度より大田市地域包括支援センターのランチの委託を受け、これまでの地域の福祉ニーズと行政の相談窓口との距離感を解消できるよう支援する。
6. サンチャイルド長久さわらび園においては、書類のIT化を図り、保育士の事務負担の軽減を図る。学童クラブにおいては、利用児童数の増加に伴い職員を新規採用し組織体制の強化を図る
7. 働き方改革が4月1日に施行され労働環境の改善が求められる。また報道される福祉サービスの不祥事に対しては、法令遵守責任者の下、各事業所の施設長、所長等の管理者が運営基準、人員基準等の法令遵守に努め、業務管理体制を強化徹底する。その一環として、定期的に法人内での相互に牽制を行う。
8. 地域貢献として、さわらびシンフォニックバンドの地元地域での演奏活動、三瓶地区での草刈等の道路清掃活動、地元地区の女性の会への参加、地域の福祉活動への職員派遣を行う。

| 事業所名 | 目標値（稼働率） |
|-----------|-------------------------------|
| さわらび苑（契約） | （契約）97% （短期）一日1名 |
| グループホーム | 99% |
| DSさんべ | 65% |
| 居宅さわらび | 介護108名/月 介護予防30名/月 新総合事業16名/月 |
| ゆうイング（契約） | （契約）98% （短期）75% |
| DSゆうイング | 88% |
| サンチャイルド | 120名/月 |
| 学童クラブ | 通常期 50名 |

〈特別養護老人ホームさわらび苑(空床利用型短期入所生活介護事業所)〉

〈さわらび苑方針〉

1. いよいよユニット型特別養護老人ホームの建設が始まる年度を迎え、ユニットケアに向けて、24時間シートに基づいて実践を行っていく。
2. 看取り介護をはじめ医療的介護の充実を目指す。
3. 地域貢献に積極的に関わっていく。

〈事務部門〉

1. 事務所が施設の顔、施設の管理部門としての意識を常に持ち、家族に安心感、信頼感を与えることができるよう努める。
2. 経理規程に従って、期日の遵守、正確性、迅速性をより高めていく。
3. 来苑者はもとより、事務所内及び他部門の職員に対しても誠意ある対応を心がけ、気持ち良く、業務ができるよう側面的な援助を行っていく。
4. 常に環境整備に気を配り、備品等の管理を徹底していく。

〈相談員部門〉

1. ユニットケアの一部実施を行い、移行に備える。
2. 入退所の調整を迅速に行い、稼働率アップを図る。
3. 行事の簡略化を図る。

〈介護支援専門員部門〉

1. 担当者会議に入居者、家族の積極的な参加を目指し、入居者、家族との信頼関係を構築すると共に、その方らしい個別性のあるプランを作成する。必要に応じて（ご家族の高齢化、交通手段の必要性等）担当者会議を自宅で開催し、地域との関わりを持つ。
2. 契約・入居時より看取りを意識し、入居者や家族がどのような終末期を迎えたいのか、意向を各職種が把握する。終末期においてもその方のこれまで歩いて来られた生き方、生活感を大切にして、その方らしさが最期まで保たれるようなケアプランの作成を行う。
3. 個々の生活歴、残存機能を把握したケアプランを作成し、生活の中に生かすことができるように多職種協働（介護、看護、訓練、栄養等）で自立支援に繋げる。支援目標を共有し、統一した援助が出来るように担当者会議だけでなく、ミーティングや連絡ノートを活用し、共通認識を深める。
4. 短期入所利用者が自宅での生活が継続できるように、在宅チームの一員として居宅での担当者会議に出席する。家族やケアネージャー、他サービス事業所と連携し、短期入所利用時以外での様子の把握に努める。

〈看護部門〉

1. ユニットケアに向け24時間シートに基づき、個々の特性をとらえた医療的ケアを

提供していく。

2. 個々の健康状態を常に把握し、異常の早期発見・早期治療に繋げる。
3. 看取りの取り組みを一層進めていく。
 - ・契約入所だけでなくロングショートの方も希望があれば施設での看取りを行う。
 - ・入所時より看取りを意識したケアを行い、利用者、家族が安心して最期を迎えられるよう、またさわらび苑でよかったと提供いただけるような看取りケアを心がけていく。入所時、面会時、家族より生活歴を確認し、その方らしさを取り入れた看取りケアを行っていく。
 - ・医療職としての知識、技術を生かし、多職種協働での看取りケアと共に医療的介護に取り組む。
4. 空きベッドを活用し、医療的看取りケアの必要な方、認知症の方等もニーズに応じて受け入れていく。
5. ユニットケアに向けての体制、備品について具体的に取り組む。
6. 感染症対策として、職員、家族も含めての健康管理を徹底していく。

<機能訓練指導員>

1. 他職種との連携を図り日常生活の中で機能改善に繋がるようなプランを作成する。
2. 日常的なケアに関わり、残存機能の維持、向上に努める。
3. 統一した介助方法の為、他部門への情報共有、指導を行っていく。

<介護部門>

ユニットケアに向けて

- ・一人ひとりの24時間シートを基に、個別ケアの実践と見直しを重ねていく。
- ・日々の関りの中で常に個々を意識した処遇に努め、その気づきを24時間シートに反映していく。
- ・個々の生活スタイルが継続できるよう、声に出しての職員間の連携・情報の共有に努める。

<栄養部門>

1. ユニットケアに向け介護の基礎を学び、利用者への理解を深める。利用者・家族の意向を尊重し、嘱託医・多職種協働で栄養ケア計画の作成、栄養ケアマネジメントを行い、健康と経口摂取が維持できるようにする。
2. 嘱託医の発行する食事箋に基づき、必要に応じて療養食を行う。ユニットでの療養食やアレルギー等の代替食の指示や提供方法を調理部門と検討し、構築する。

<調理部門>

1. 利用者の声に出来る限り対応し、楽しみのある安心・安全な食事を提供する。
2. 利用者の機能・ニーズに合わせた食事を提供できるよう、栄養部門と連携し、経口摂取の維持に努める。
3. 職員個々が衛生意識を高く持って、手洗いを始めとする衛生の基本を確認しつつ日々の業務に臨む。

4. 施設移転に伴い、食事の提供が安全でスムーズに行われるよう、準備をしていく。

＜グループホーム＞

1. 環境
 - ・家庭に近い環境の提供に努め、馴染みの関係作りにより、認知症の緩和を図る。
 - ・定期的な行事、外出を計画し、季節感や非日常的な場を提供する。
2. 個別ケア
 - ・個別性のある援助計画を作成し、個々の状況に応じて自立した生活が送れるよう援助を行う。
3. 食事
 - ・利用者の楽しみの一つである“食”を専門職と共に、グループホームならではの食として提供する。
4. 健康
 - ・排泄、水分、栄養、睡眠を重視し、個々の健康管理に努める。
 - ・歯科医師により口腔ケアに係る助言及び指導を受け、利用者の口腔ケアを徹底し、感染予防に努める。
5. 家族との連携
 - ・家族には話しやすい雰囲気作りや、定期的な広報誌の発行、運営推進会議への参加を通して連携を密にし、「安心」の提供を行う。
6. 地域との連携
 - ・地域との交流、かかわりを大切に開かれた施設として地域の理解を求めていく。
7. 質の向上
 - ・認知症、介護に関する研修に参加し、職員の質の向上を図る。
 - ・放泉会職員の専門的分野の協力を得る。

＜デイサービスセンターさんべ＞

1. 在宅での生活向上に繋がるよう、自宅でも継続できる自立支援に向けた訓練を行う。
2. 職員間で情報を共有し関係機関との連携を図り、信頼されるサービス提供者となるよう努める。
3. 職員が勉強会、研修会に参加し個々のスキルアップに努め、「気付く力」を身に着け、利用者の介護に反映していく。
4. 送迎マニュアルに沿って安心、安全な送迎を行う。
5. 立地条件から、冬場の稼働率低下は否めない。春から秋にかけての利用者増を目指し、諸機関に情報提供を行う。

〈特別養護老人ホームゆうイングさわらび(併設型短期入所生活介護事業所)〉

〈ゆうイングさわらび方針〉

1. 平成 13 年 12 月に開苑以来、満 17 年を経過したゆうイングさわらび、悠、裕、優、遊、友、雄・・・の ing。順調な歩みの中にも原点に立ちかえり、躍進する年度としたい。
2. 新さわらび苑建設に伴い、立地からみても、ゆうイングが事務局的働きを担う存在となることが予想される。さわらび苑の建設、移転がスムーズに行われるように努める。
3. 職員研修、自己研磨と啓発を目的として各研修会に積極的参加し、知識、技術の研磨を図ると共に、資格取得にも意欲を示す。人材育成は引き続き最重要課題とする。新さわらび苑に向けて、職員採用を計画的に行う。
4. 法人内の各施設との交流を更に強化する。
5. 教育機関等の実習施設としての受け入れ、地元自治会、老人会、保育園、小学校等生活教育の場として機能を発揮する。

〈事務部門〉

1. 施設の窓口、施設機能の中心部として、緊張感を高めて対応し、他部門との連携を取り、ご利用やご家族に心地よいサービスになる様に努める。
2. 事務室の国道 9 号線、山陰本線また、サンチャイルドの動きのある眺望や声が聞こえる環境の利点を生かし、ご利用者の方に集いの機会を提供することにより、楽しく変化のある生活に生き甲斐を感じて頂く。
3. 新会計基準移行後 3 年を経過する中で、専従オペレーターを配し、より一層の正確性、迅速性を高めるとともに、各事業所の事務員の連携をより密にして計画的に準備する。

〈相談員部門〉

1. 施設入所待機者を把握し入退所の調整を迅速に行う、また短期入所に於いてもスムーズに調整を行うことにより稼働率アップを図る。
2. ご家族・各関係機関との連絡調整を行う。
3. 施設及び各居宅事業所の介護支援専門員と連絡・調整を密に行い情報収集に努める。
4. 居室内に於いてご利用者一人一人が平等に窓外の景観と採光の恵みを得られる環境づくりを積極的に取り組み実現化する。
5. 事務室の窓外の動きある（サンチャイルド・国道 9 号線・JR・市道の往来、サンシルバーさわらびの建設過程等）眺望を活かしご利用者の集いの場として提供することにより変化のある生活を送っていただく。

〈介護支援専門員部門〉

1. 入居者・家族との信頼関係構築を目指し、担当者会議に入居者・家族の参加 60%以上を目標とする。入居前の生き方や生活観の把握に努め、個別性のあるケアプラン

を作成する。必要に応じて(御家族の高齢化に伴い)担当者会議をご自宅で開催し、地域との関りを持つ。

2. 契約、入居時より看取りを意識し、入居者や家族がどのように生活する事を望むのかを把握する。終末期を迎えられた方のこれまでの生き方や生活観を大切にし、その人らしさが最期まで保たれるようなケアプランの作成を行う。
3. 支援目標を共有し、入居者の意向が叶えられるようにそれぞれの専門職間の調整役を担う。統一した援助を行えるように担当者会議だけでなくミーティングや連絡ノートを活用し、共通認識を深める。
4. 定期的なモニタリングによりケアプランの実施状況や、入居者の計画に対しての満足感を把握し、次の計画に活かして行く。
5. 短期入所利用者の居宅での担当者会議に出席する。在宅連絡ノートや送迎等の機会を活用し、情報共有を行い、その情報を介護現場と共有する。家族、在宅ケアマネ、デイサービス、ヘルパー等と連携し、短期入所利用時以外の様子の把握し、在宅生活が継続出来る様に努める。

<看護部門>

1. 経管栄養、喀痰吸引、在宅酸素、人工肛門、インシュリン注射、医療ケアの必要な入居者の受け入れを行い、地域のニーズに対応する。
 - ・10床の短期入所のベッドを有効に活用し、医療ケアを必要とし困っている方を積極的に受け入れ、ご家族のレスパイトの手助け、介護離職者ゼロへ貢献する。
 - ・嘱託医の指導と教育を得ながら、重度の方が安心して施設利用が出来るように、職員のスキルアップをしていきたい。
 - ・口腔ケアの徹底により、肺炎のリスク回避を行う。
2. 多職種協働の看取りケアに取り組む。
 - ・契約入所のみならず、ロングショートの方でも状況に応じて苑での看取りを行う。入所当初から「看取り」を意識した介護を行い、「ゆーイングさわらびで最期を迎えたい」また「迎えることが出来て良かった」と言って頂けるような看取りケアを心がける。
 - ・専門職の知識と技術をいかしながら、チームとして「看取り」を考える。
3. 日常の健康管理を徹底し、入院期間は最低限とする。
 - ・退院許可が出てから、速やかな退院を心がける。
 - ・脳梗塞や心臓発作などの急な発症以外、利用者のいつもとは違う変化を早期に発見する観察力を身に付け、嘱託医への報告を迅速に行う。
 - ・職員が自己の健康管理に気を付け、職業人としての自覚を持つ。
特にインフルエンザ等の感染症については、職員本人だけでなく、家族が罹患した時にも、出勤停止期間を設けたり、業務内容を変更するなどし、利用者への感染を防ぐようにする。

<機能訓練部門>

1. 自立支援を基盤とした、個々のニーズに応じた機能訓練を基本とし、専門的な視

点にて到達点を設定しQOLの向上を目指す。入居者本人の気持ちに寄り添った目標を挙げることで、意欲的に訓練に取り組むことができるようにする。

2. 施設内だけでなく、施設外のサンチャイルドや、自然の景色、環境を活かし、季節を感じる活動を行い、生活意欲の向上、楽しみにつなげる。個別の環境を想定した具体的な訓練を行い、外出、外泊につなげる。
3. 多職種との連携を充分にとり、訓練指導員の立場から、より良いポジショニングや福祉用具、移乗等の勉強会を企画する。新しい取り組みとして訓練内容に福祉用具を取り入れ、使用、提案することで、入居者、介護職員双方の負担軽減に努める。

<介護部門>

1. 入居者の心身の状態（認知症、生活動作等）を把握し、また、今までの生活歴や生活リズムを本人・家族の方と共有・連携を図り、多職種協働でのチームケアを実践し個々の入居者が希望される生活の質が高まるように支援する。
 - ・趣味活動（茶道、裁縫等）、地域性を生かしたお出かけ（イオンでの買い物、外食等）支援、意思疎通の困難の方へのケアとして、痛み（拘縮・褥瘡予防・介助方法）
 - ・痒みの緩和（スキンケア）を基本として、本人の好きだった音楽を流したり、仏壇拝みなどの目的で自宅への外出支援を実施する。
2. 看取りケア
 - ・入居者や家族が安心した終末期を迎えられるよう、本人・家族の意向はもちろん、人生観・倫理観を共有し、その方が望まれる環境を整える。
 - ・情報交換ノートを作成し本人・家族の思いを記入し家族と施設が一緒に取り組み、最期までその人らしく看取れるようにする。
 - ・家族にも心身の疲労や精神的負担に配慮しつつ、率直に施設への要望を言って頂けるような関係作りをし、安心して入居者の“看取り”を「ゆうイングで」と希望されるような施設にしていく。
3. 知識・技術の向上
 - ・改めてICF、5つのゼロと4つの自立支援の理解を深め、入居者個々に合わせた根拠のあるケアを行う。
 - ・外部研修への参加、施設内勉強会、現場でのブロック会の開催を行い、新しい介護知識・技術を現場で実践することで、職員のスキルアップ・マンネリ化を打破し新しい事に挑戦する。
 - ・福祉用具の使用方法を学び実践し入居者への負担軽減、職員の腰痛等の予防を行う。

<調理部門>

1. 昨年の地震災害・豪雨災害を教訓に非常食（委託業者のひまわり非常食）・備蓄品の充実を図り、常に計画的に行事食としての提供に繋げ、全職員の食に対する危機意識を高める。
2. 消化器系に負担の少ない献立（軟菜食）を導入することで、幅広い内容で個別対

応を目指す。また、委託業者の行事食セットを有効利用し、食の楽しみを増やしていきたい。

3. 食中毒・感染症予防、異物混入等安心・安全な食事を提供するため、職員個々が衛生意識を高く持つ。また、季節の流行時の感染がないように体調管理に気をつけ、無理のないシフトを心がけ働きやすい職場作りを目指す。

＜栄養部門＞

1. ご利用者やご家族の意向を尊重し、作成時には個人個人の状態に応じた栄養ケア計画書を作成する。多職種協働で栄養ケアマネジメントを行い、嘱託医とも連携を図り、健康と経口摂取が維持できるよう努める。
2. 看護・介護・調理部門との連携を強め、日々の食事摂取状況や動作等の観察を行い、御利用者の小さな変化にも気づけるよう努める。気づいた点は積極的に自ら発信し、他部門に連絡・相談を行い、より良いケアに繋げていきたい。
3. 嘱託医が発行する食事箋に基づき、必要に応じて療養食を提供する。また、新規で療養食加算の対象となる時には、積極的に加算が取得できるよう努める。

＜デイサービスセンターゆらিং＞

1. 選ばれるデイサービスの基盤作りができるよう地域に根ざした事業所を目指す。
2. 職員間の情報共有・統一したケア、また関係機関との連絡を密にし、信頼される事業所運営を行うと共に、ご利用者・家族に満足いただける、魅力あるデイサービスを目指す。
3. 送迎時に個々のアセスメントを行い、個別の送迎に関する注意点・留意点を随時最新に更新し、送迎時の事故や苦情をなくす。送迎の方法を職員間で徹底する。
4. 感染症マニュアルの作成を行い、発症時及びその後の対応を徹底し、事業所内の拡大防止に努める。また、感染症以外のマニュアルに関しても統一した対応が出来るよう努める。
5. 身体機能向上だけに着目せず、社会生活・尊厳の保持も含めた状態改善を意識する。利用者が望む在宅生活・地域との関りが継続していける機能訓練の提供を行う。

＜居宅介護支援センターさわらび＞

1. ご利用者のご家族に安心感を持っていただける対応を行う。
2. 医療との連携を重要に受け止め、必要な医療と介護サービスがタイムリーに受けられるよう支援する。
3. 地域と顔の見える関係作りを目指す（民生委員、町づくりセンターとの関わりを重視する）
4. 大田市より委託を受けて、地域包括支援センターブランチとして相談業務、状態把握（長久、池田、志学）を行う。
5. 地域包括ケアシステムの考え方にに基づき、介護保険内のサービスだけでなく、他機関との連携を密に取り、保険外のサービスもプランに積極的に盛り込む。

＜サンチャイルド長久さわらび園＞

1. 基本方針

放泉会理念を基に養護・教育・食育の3本柱を機軸に、愛情を持って接し、子どもの主体としての思いや願いを受けとめ、安心して育ちゆく毎日を提供していく。

2. 保育理念

(1) 子どもたちには安心・安全を、保護者には安心感と信頼感を得られる保育をおこないます

(2) 子どもたち一人ひとりを理解し、個々に応じた丁寧な対応に心がけます

(3) 職員の人間性、専門性を高め、保育の質の向上を目指します

3. 保育目標

～太陽の子 サンチャイルド～

(1) 生命を大切にたくましく生きる 「げんきな太陽の子」を育てます

(2) 友だちとなかよく、思いやりの心を持つ 「やさしい太陽の子」を育てます

(3) 感性と創造力を持つ 「かがやく太陽の子」を育てます

4. 保育内容

(1) 保育年齢：生後57日～ 就学前定員120名

(2) 特別保育：一時預かり保育、延長保育、障がい児保育、病後児保育

(3) 地域交流：子育て講座事業

・世代間交流（さわらび苑・ゆうイングさわらびとの交流・地域高齢者との田植え稲刈り交流）

・異年代・異校種との交流（伝統神楽・市内小学校・市内保育園との交流）

・在宅子育て家庭との交流（ほっとな会との交流・開放デー）

＜長久ゆうゆう学童クラブ＞

1. 理念

保護者の就労等で支援を必要とする子どもたちに、「一緒に遊びに熱中する」という体験を通じて、小学生期の人間形成にとって大切な主体的にたくましく生きる力を育むとともに、安心して、のびのびと放課後を過ごせる場所を提供することによって、子どもの健全な育成を図ります。

2. 基本方針

○遊び、学び、会話を通じて、それぞれの子どもの気持ちに細かく寄り添いながら接していきます。

○保護者と共に、宿題・身体づくり・仲間づくりに努め、子どもたちが主体的に過ごせるよう支援していきます。

○地域との交流や自然体験を積極的に取り入れます。

○子どもの人権・健康・安全に配慮し、危機管理に努めます。

3. 目標

○日々を主体的に過ごせるように

・一日の生活の流れをパターン化しています。

- ・自分で自分の命が守れるよう、2か月ごとに避難訓練（火事・地震・水害）、不審者対応訓練をしています。
- 日常生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けるために
 - ・手洗い・うがい・掃除・後片付けなど丁寧に指導しています。
 - ・いろいろな場面を通じて、友達と一緒に過ごす上で必要な協力や分担、決まり事を教えています。